

## 切手の大量購入

### 政活費を返還へ

市川市議会 複数会派

政務活動費支出に関して市の個別外部監査で約2134万円の不適正支出が指摘された問題で、市川市議会は16日、全員協議会を開いた。事の発端となった切手の大量購入について、複数の会派が返還の意思を示したが、使われ方が解明されないまま19日告示の選挙戦に入る事になった。

協議会は全11会派41人（欠員1）の議員が出席。同費による備品購入や市内視察、会報作成、切手購入の4項目への各派の対応について順に発言した。

その結果、切手の支出については、「全額自主返納する」としたのは2会派、

「使った議員の判断に委ねる」が2会派、「市長が判断」「実際に支出した議員が返還すべき」が各1会派だった。備品や視察、会報への支出も複数の会派が「自主返納する」とした。

引返の意思を示している

宮田克己議長は終了後の会見で「率直な気持ちでこれだ」と述べていた。また、切手購入に合理性があったかどうかについての問題は「選挙後に絶対の解明に取り組みと思う」としか言えない」とし、次の議長に引き継ぐ考えを示した。